



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2019年11月3日

№. 66

あなたたちが主を選び、主に仕えるということの
証人はあなたたち自身である。

ヨシュア記 24章22節b



礼拝献花より

神と共に 人と共に

ルーター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『人生の理由』

牧師 佐藤和宏

マタイ5章1節～6節

「聖書のみ、恵みのみ、信仰のみ」。これを宗教改革三大原理と言います。もちろん、これはルターがそのように言ったというわけではなく、宗教改革に至った原理を挙げるなら、これら三つの言葉に集約されるということを行い表しているのです。「のみ」という言葉が、その特徴であることがわかります。

ルターは、この「のみ」という表現を意図的に使っていたようです。例えば、ルターが自ら翻訳したドイツ語訳聖書に、敢えて原文にはない「のみ」を加えた箇所がありました。それは、ローマの信徒への手紙3章28節になります。私たちが手にしている新共同訳聖書では、「人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰による」となっています。いわゆる「信仰義認」について、触れている箇所になります。これはこれで十分な訳になると思うのですが、

ルターはここを「人は律法のわざによらず、信仰のみによって義とされる」と、「のみ」を加えて訳しているのです。

このことについて批判された時ルターは次のように答えています。「原典にはこの語が出ていないことを私はよく知っている。我々が二つの事柄を対立させておいて、一つを認めあるいは受け入れ、そして他を退けることを明らかにしようとするときは、いつでも『のみ』という語を用いる」と答え、続いて一般的な例をいくつか挙げています。そして、次のように締めくくっています。「対比を明らかにするために、『ない』とか『一つもない』に対立させるのに、我々は『のみ』という言葉を持っている。」

このことから、ルターは「のみ」という言葉を、対置している言葉を退けるために、しかも徹底して退けるために用いたことがわかります。

福音の日課に目を向けてみましょう。今年の宗教改革主日に与えられた福音の日課において、主イエスは「幸いである」と繰り返されています。ヘブライ語に見られる意味合いは、

主観的な「幸い」ではなく、客観的な「幸い」であるということです。また、日本語訳聖書では表現が難しく、現在のようになっていると思うのですが、今日の場合、語順が意識される必要があるのではないかと思うのです。どうかと云いますと、原文を直訳すると、次のような語順になっているからです。「祝福されよ。心の貧しい人たち。天の国は彼らのものである。」

つまり神の「祝福」が第一に来ているのです。そして、具体的な理由が「天の国はその人たちのものである」と添えられているのです。続く祝福も「その人たちは慰められる」「その人たちは地を受け継ぐ」「その人たちは満たされる」と、具体的な理由が、それぞれに添えられているのです。

私たちは、それぞれの人生で、幸せを求めてきたことでしよう。しかし、喜びのときだけではなく、悲しみも苦しみも経験するのです。そのようなとき、神はおられないのでも、神に見捨てられたのでもなく、神がその苦しみや悲しみの中にある私たちに働かれる、そのときなのです。

先週の説教で触れた「ニューヨーク

ク・リハビリテーション病院の壁に書かれた患者の詩」で、その人は主観的に祈り求めたのですが、与えられた神の答えは、それらとはまったく違っていいほど、反対に思われることばかりでした。それは主観的な祈りに対して、客観的な答えが与えられたということです。しかも与えられた客観的な答えは、祈る私たちと同じ人間による客観性なのでなく、私たちが高く超えた神による客観性、私たちの主観を超え、もっとも良いものをもっともふさわしい時に与えられる、神の主観にほかならないのです。

私たちが幸せとされるのは、「幸いである」と祝福してくださる方が、絶えず共にいることを知って、すべてを委ねて人生を歩み続けることにほかならないのです。私たちの主観によってではなく、ただ神の主観によって、人生のそれぞれの場面で与えられる答えをいただいて生きるからこそが、神の恵み。ですから、私たちは「恵みのみ」、その他の何ものによってではなく、ただ神の恵みに信頼して生きるのです。

(宗教改革主日)

式文の歌い方について

10月13日の礼拝後、奏樂者の皆さんに集まっていただき、打ち合わせの時間を持ちました。主に式文について確認をし、少し修正をすることになりました。大きな修正については、映写する画像の変更、式文には修正用のシールを用意する予定です。また、奏樂者により、変更点などの説明もさせていただく予定です。礼拝は、司式者と奏樂者が導きますが、皆さんと共に、より豊かにしてまいりたいと思いますので、よろしくお願ひします。

式文の修正点に触れる前に、式文を用いるための基本的な考えをお伝えします。

①「読む速度で歌う」

式文中の言葉は、ほぼ聖書の言葉です。楽譜がありますが、言葉が中心になります。音符はおおよその長さを示すのに用いられ、音楽的な意味での音符とは少し意味合いが違ってきます。

②「」は言いかえのしるし

式文中の「」は、何となく打たれているのではなく、言葉を明確にするために言い換えが必要とされる箇所にするしとされています。二つの例をあげて考えてみましょう。

第一は右の図（「グロリア」4節後半）のように、同じ音符内に「」がある場合です。ここでは「父のみ子」「神の小羊」「世の罪を取り除く主」という、キリストを表現する三つが並列しています。その一つ一つがキリストを表す大切な言葉ですから、それぞれを言い直して、意味を噛みしめるのです。



父のみ子、神の子羊、
世の罪を取り除く
主 — よ。

また、この節は、同じグロリアでも、他に比べて文字数が多いため、限られた拍数の中で言い切らなければならぬかのような強迫観念からでしょうか、急いで歌ってしまう傾向が、どの教会にもあるようです。しかし、大切なことは「読む速度で歌う」ことであり、この音符は



世 — の つ み を と り の そ く、 か — み の こ ひ つ じ よ。

正確な長さを示しているわけではありません。

第二の例は、上の図（「アグヌスデイ」）になります。ヨハネによる福音書1章からの言葉になりますが、「世の罪を取り除く」「神の小羊よ」と、「」で言い換えるようになっていきます。それは「息つき」ではなく、次の言葉を明確にするために必要な「間」のようなものと言えるでしょう。同時に覚えておきたい言葉、言いかえる分、音符の長さも実際より短くなるということなのです。

「」の「とりのぞく」と歌ってしまうのですが、

ここでも思い起こしたいのは、「読む速度」ということです。直接には「速度」の問題ではありませんが、「読む」という場合、「とりのぞく」とは読みません。「とりのぞく」です。

③言葉のまとまりを意識する

すでに申し上げましたように、式文の言葉は聖書の言葉を採用しています。ですから、「言葉のまとまり」を意識することは、御言葉の意味がすっと入ってくる助けとなります。多くの箇所では、「」や「」がまとまりを意識させています。

さて、いよいよ修正箇所について触れたいと思います。次のページの上の図は、これまで使用してきた譜面になります。下の図は、修正を加えた譜面です。小さな修正なのですが、これまでは「わたしをあなたのみまえからすてず」と歌っていました。そしてつい「わたしをあなたので切ってしまったのです。「あなたのみまえ」は、言葉として決して切れ目とはならないはずなのですが、息をつぎたくなるのです。そこで修正したのは、「あなたのみまえ」を切らないために、「わたしを」で言いかえるようにしたこと。同時に「あ

あなたの「の」を半分の長さにし、「あ
 なたのーみまえ」と歌うのではなく



「あなたのみまえ」と読みと同じよう
 に歌えるようにしました。こうして、

「あなたのみまえからすてず」と言い
 切ることが期待されています。(佐藤)

日本福音ルーテル藤が丘教会主催

Christmas Concert

ブラスバンドによる無料のミニコンサート

12月7日(土) 15:00~16:30
 ※開場14:30

トリニティホーンズ

石井 真 (Tp)
 高井天音 (Tb)
 米田裕也 (Sax)
 あびる竜太 (Pf)
 長谷川慧人 (B)
 勘座光 (Ds)

日本福音ルーテル藤が丘教会
 横浜市青葉区藤が丘2-31-21
<https://www.jelc-fujigaoka.org>

今月の受洗記念日の皆さん

8日 ○野○子姉
 15日 ○嘉○代姉

おめでとうございます。

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。
ローマの信徒への手紙 12章 15節
 藤が丘教会ウェブサイト <https://www.jelc-fujigaoka.org/>
 フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日曜日午前10時半)

今年のクリスマスコンサートの
 出演はジャズバンド！
 お気軽にお越しください。

■牧師室より

10月に開催を予定していました

「秋の作品展」「信徒交流会」は、台風の影響により、中止とさせていただきます。展示の用意をしてくださった皆さんには、多大なご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。またの機会にぜひご出展くださいますようお願いいたします。

大きな台風などの影響で、各地に甚大な被害がありました。被災された地域の皆さんの上に、主の慰めをお祈り致します。少しでも早い復興がなりますように、被災者の方々をはじめ、復興のために尽力する方々を覚え、日々祈ってまいります。

- 11月の予定
 - 3日 全聖徒主日礼拝
 - 17日 子ども祝福合同礼拝 女性会
 - 24日 聖霊降臨後最終主日礼拝 信徒懇談会
- 12月の予定
 - 1日 創立記念礼拝
 - 7日 クリスマスコンサート
 - 22日 クリスマス礼拝
 - 24日 クリスマスイブ礼拝